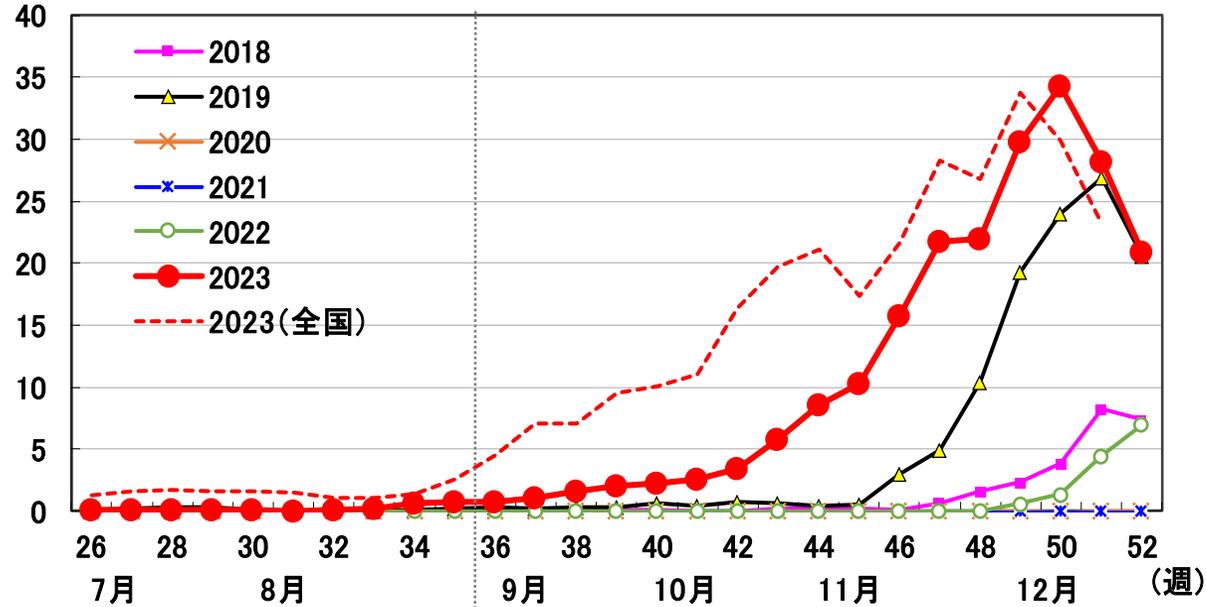


# インフルエンザの発生状況(富山県)

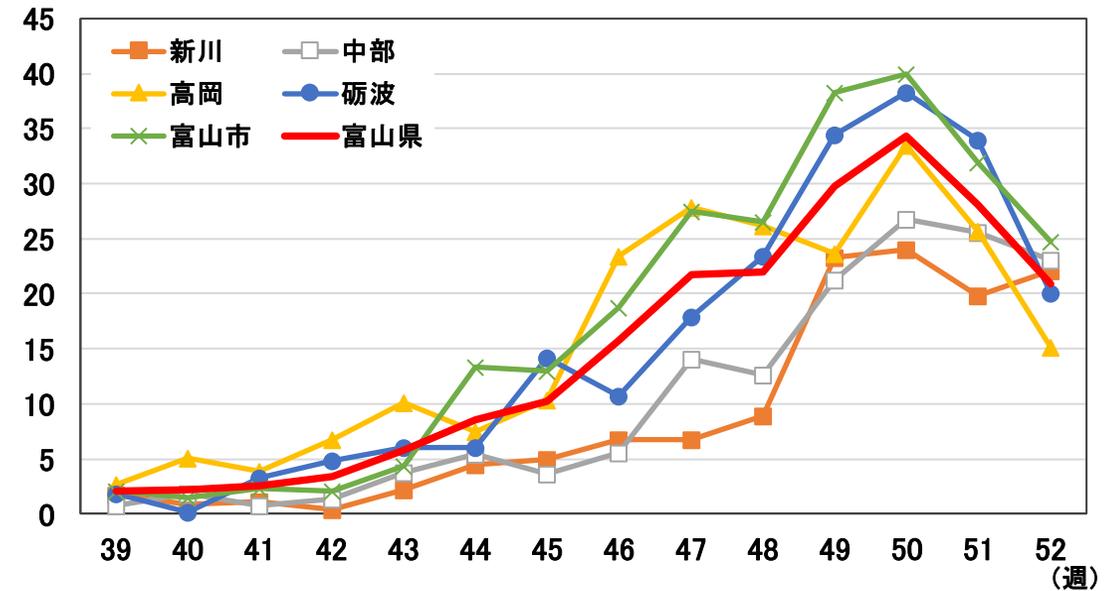
【第52週(2023/12/25~12/31) 感染症発生動向調査速報値 (2024/1/5時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数(図1)は今週(第52週) **20.90**人/定点となり、先週(28.13)からやや減少した。なお、年末の定点医療機関の休診により、流行状況を過小評価している可能性がある。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、新川管内では先週からやや増加した一方、その他の管内で減少した。

図3. 年代別割合(富山県、第52週)

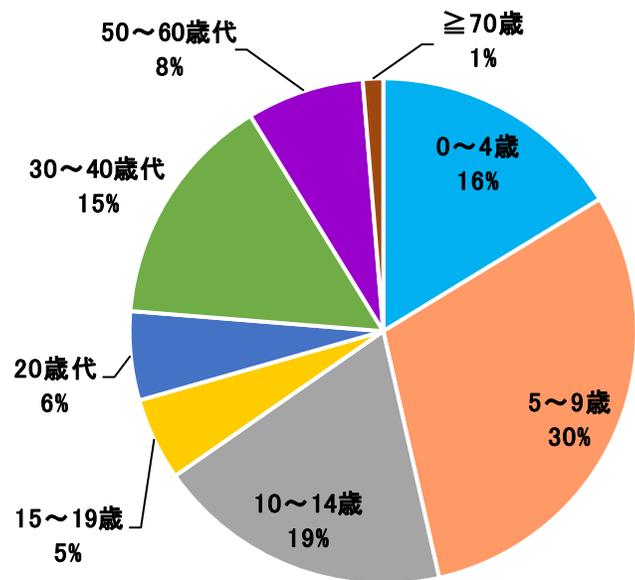
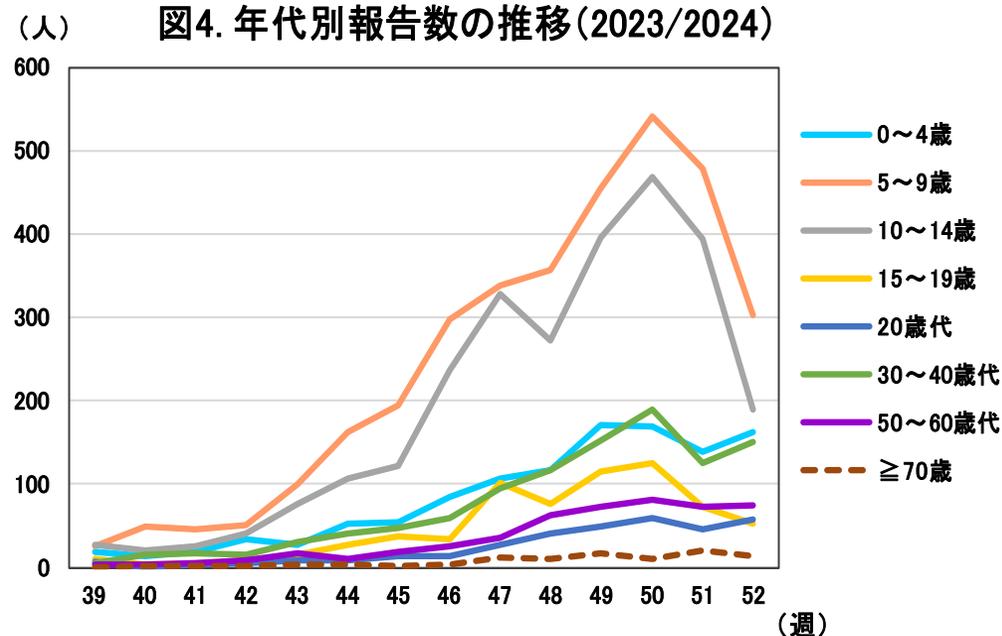


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第52週の年代別割合(図3)では、15歳未満の小児が65%を占め、先週(75%)から減少した。
- 年代別報告数の推移(図4)では、5~9歳(オレンジ)、10~14歳(灰色)では先週から大幅に減少した。一方、0~4歳、20歳代以上の成人では、先週から横ばいであった。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は第52週に報告がなく、冬休みに入った影響と考えられた。  
富山県インフルエンザ関連情報HP：<https://www.pref.toyama.jp/120507/kurashi/kenkou/iryuu/kj00007295.html>

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第51週)

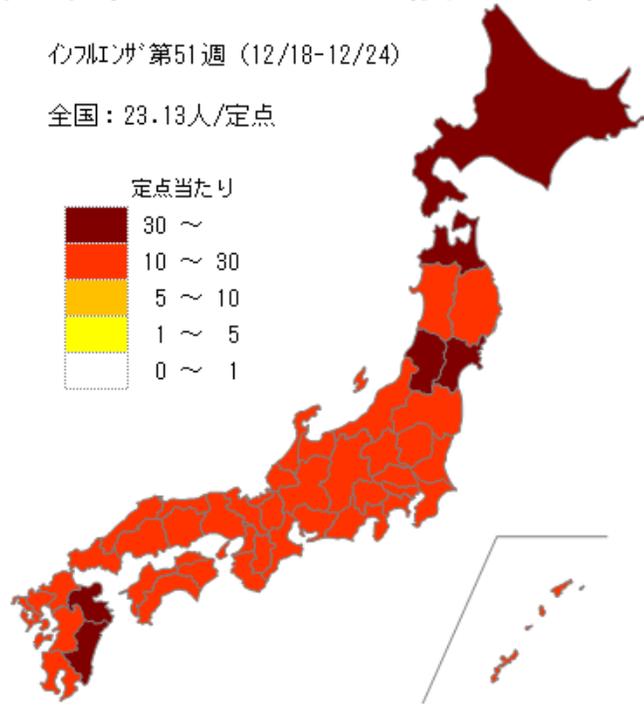
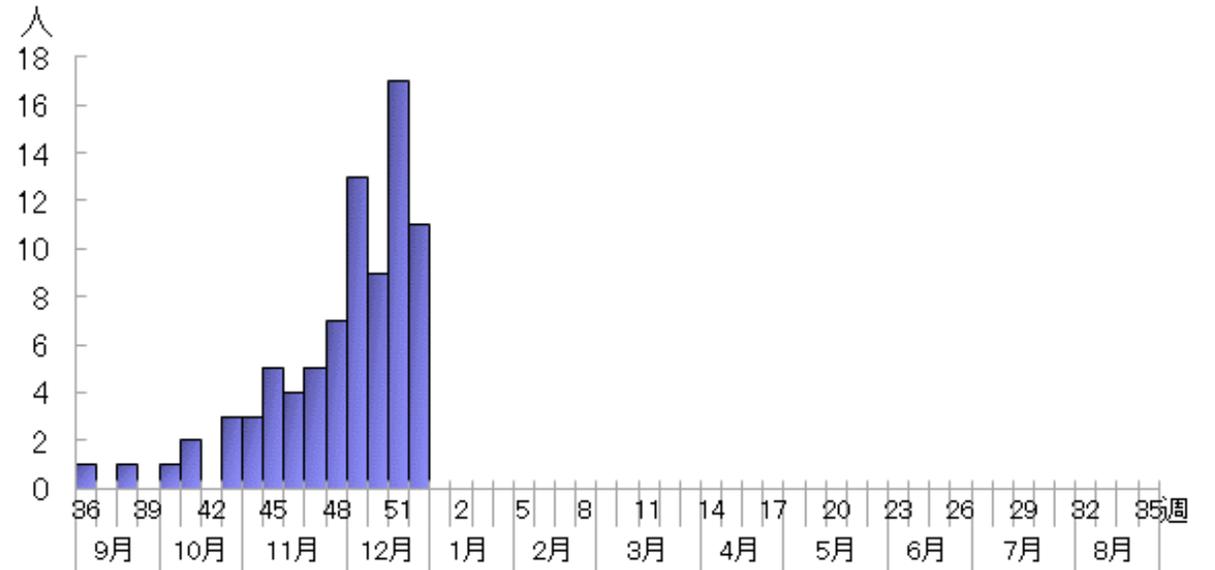


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第52週)



- 全国では第51週に23.13人/定点となり、第50週 (29.95) からやや減少した。都道府県別 (図5) では、全都道府県で注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。また、その内6道県で警報レベルの目安である30人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス (図6) では、第52週に11例の報告 (10歳未満: 2例、10歳代: 3例、30歳代: 1例、40歳代: 1例、50歳代: 1例、70歳代: 1例、80歳以上: 2例) があった。
- 患者報告数は2週連続で減少したものの、依然として報告数の多い状況である。年末年始の休暇後の再増加が懸念され、引き続き動向を注視する必要がある。